

評価項目・具体的方策(案)について

【運営方針1】教育カリキュラムの充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】卒業後の就農、就職等に向けた教育体制づくり

評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
1 国・県の重点施策を踏まえた学科及び講座の配置	(1) 林業経営学科卒業生の林業就職率:60% (2) 新たな加工品の商品化:1点 (3) ASIAGAP ver.2(品目:西洋なし)の認証取得	① 本県林業の担い手の育成・定着(継続) 設置3年目となった林業経営学科について、現場で必要とされる実践的で専門的な知識・技術の習得や資格の取得により、「やまがた森林(モリ)ノミクス」を担う林業の次世代リーダーの育成を図る。 ② 6次産業化に関する講座の実施(継続) 6次産業化の推進に向けて、1学年を対象に専門共通科目として「6次産業化」を設定し、制度や加工技術等について幅広く学習する。 ③ 農産加工技術の習得(拡充) 今年度、チーズ,,ヨーグルトの農産加工の実習の拡充を図るため、新たに乳製品加工施設を整備する。 ④ ASIAGAP及び農場HACCPの認証取得(拡充) 国際水準の農産生産工程管理手法である「ASIAGAP」の研修会への職員の参加やコンサルタントの指導を受け、米(玄米・粳)の認証維持と、新たに西洋なしの認証取得に取り組む。また、畜産経営学科は、飼養衛生管理向上の取組みである「農場HACCP」の認証取得を目指す。 ⑤ スマート農業に関する学習(新規) これまでの科目「ICT活用」では、インターネットを活用した情報の伝達や発信、農業経営等を中心とした内容だったが、今後現地での普及が見込まれる先進技術を活用した「スマート農業」に関する内容に加え、農業用マルチローターやリモートセンシング等の技術を演習を通して学習する。	・ 学科設置から3年目を迎えた中で、1期生の2年間の知識・技術の習得状況や課題等を踏まえ、より安全で効果的な技術の習得をめざし、講義、実習とも基礎から実践まで段階的な指導を行った。 特に、林業の基礎である伐採や高性能林業機械をはじめとする機械実習については昨年度より多くの実習を行ない、現場で求められる実践的な技術の習得と資格取得に取り組んだ。 ・ 今年度は大学教員を「6次産業化」の講師に依頼し、専門的・体系的な知識の習得に取り組んだ。 ・ 今年度整備する乳製品加工施設を有効に活用するため、1年生は研修部主催の研修会に参加してモッツアレラチーズ製造に関する知識・技術の習得に努めた。また、2年生は、卒論でモッツアレラチーズの作業工程の改良と「フロマージュ・ブラン」の製造に取り組んだ。 ・ また、地域特産物を利用した農産加工品の商品企画、商品の試作・評価に取り組み、夏秋トマトを原料にした新商品を開発した。 ・ 「JGAP」の研修会に職員3名が参加し、指導員の資格を取得した。 ・ 昨年度「ASIAGAPVer.1(品目:粳、玄米)」の認証を取得した稲作経営学科では、今年度、維持審査を受け、取り組みを強化した。 ・ 今年度新たに、果樹経営学科が「ASAIGAPVer.2(品目:西洋なし)」の認証取得のため、GAPコンサルタントから、学生、職員が管理点と適合基準、圃場・施設の現状把握と改善、認証審査の仕組みや手順、認証に必要な書類作成等について講義、演習を通して学び、1月に審査を受けた。 ・ さらに、畜産経営学科では「農場HACCP」の認証取得に向けて、職員が「農場HACCP指導員」の資格を取得し、学生の理解促進の学習に取り組む、関係資料の作成、施設整備と運営管理を行い、年度内認証を目指している。 ・ 稲作経営学科では、農業用マルチローターについて、関係各社から協力を得ながら、校内水田において、直播、肥料散布、除草剤散布、カメムシ防除などの作業実演や水稲生育状況のリモートセンシング、可変施肥など先進技術に関する実演を通して学習した。他の農業系学科でもマルチローターの実演会・研修会に参加し、理解を深めた。 ・ 野菜経営学科では、ICTを活用したトマト次世代型ハウスの現地研修を通して学んだ。 ・ 山形大学農学部、農業高校と連携して開催した「農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」の基調講演、パネルディスカッションでは「スマート農業」をテーマに最新の研究成果や現地導入状況等について学んだ。	(1)・・・A 林業経営学科は計画どおり運営できた。2期生の9割が林業・木材産業に就職する。 (2)・・・C トマトソース (3)・・・B ・稲作経営学科では「ASIAGAP Ver.1」の維持審査、果樹経営学科では「ASIAGAP Ver.2」の認証取得見込み ・畜産経営学科では「農場HACCP」の認証取得見込み ・農産加工経営学科ではHACCP方式に沿った衛生管理に取り組む	・ 安全で効果的な学科指導を行なうため、講義・実習とも、分野ごとの指導項目の再整理に取り組んだ。特に、伐採については、より効果的に技術を習得できるよう、新たな実習用具を設置した結果、伐採技術の効率的な習得が図られた。 一方、就職については、2期生10名のうち9名が林業、木材産業へ、また1名は森林測量関連企業への就業が決定した(林業・木材産業就業率90%)。 次年度以降は、引き続き指導項目の整理や指導方法の検証を行い、学科指導の基盤づくりに努める。また、「森林経営管理制度」の視点での技術習得にも力を入れていく。 ・ 6次産業化に取り組むうえで必要な体系的な知識を習得するため。講義や演習を通して、食品加工の基礎や表示等の関連法律、食品製造や衛生に関する施策・制度などを学んだ。次年度も、継続して実施する計画である。 ・ 来年度から活用する乳製品製造施設(チーズ及びヨーグルト)は、専攻実習での活用の他、営業許可を取得し、製品化に向けた乳製品の試作を行う。 ・ 新商品「トマトソース」は、農大市場等で販売し、好評だった。トマトは、最上地域をはじめ、県内各地で産地化されており、乳製品との相性が良いため、今後も多様な加工品製造に結び付けていく。 ・ 「ASIAGAP」の認証では、学生は、GAPコンサルタントから認証取得までの一連の知識について学んでほか、専攻実習を通して安全管理、衛生管理を中心に学んだ。特に、施設の運営管理で必要な掲示物の作成等を通して、手順ルールの確認等に関する実習により、理解を深めた。 ・ 農産加工経営学科では、HACCP方式に沿った衛生管理の導入(品目:トマトケチャップ)を行なう。 ・ 来年度、新たに野菜経営学科で「ASIAGAPVer.2(品目:メロン)」の認証審査と果樹経営学科で維持審査を受ける計画である。また、「ASIAGAP」「農場HACCP」とも、PDCAサイクルにより、継続的な点検と改善に取り組んでいく。 ・ 現地で導入が進んでいる最新技術について、農業機械等の関係各社から協力をいただき、また現地の実証試験の視察研修により学習することができた。 ・ 来年度は、従来の「ICT活用」の科目名・内容を見直して「ICT・スマート農林業」とし、新型機械の実演や先進技術の現地研修を実施し、学習内容の充実を図る。
2 実践教育を重視した学習体系やインターンシップの充実	先進農林業者等体験学習の受入れ農林業者等の評価 :良好との評価 80%	① 先進農林業者体験学習等の実施 先進農林業者等体験学習は、農家等で宿泊をしながら10日間ずつ2回実施する(農業系学科では1学年前期と後期、林業経営学科では1学年後期と2学年前期)。学習先は、先進的農業者、農業法人、農業・食品関連企業、森林組合等に依頼し、実践的な技術等を学び、優れた経営感覚に触れるとともに、農家生活を体験する。 ② インターンシップの導入(継続) 就職希望及び就職希望学生(雇用就農も含む)が高度な栽培技術や実践的な学習を希望する場合、インターンシップを実施する。	・ 前期は林業経営学科を除く1年生が10日間、後期は全学科の1年生が先進農林業者等体験学習を行った。前期の受入は先進的農業者等に依頼し、後期の受入は進路志望等に合わせ、先進的農業者をはじめ森林組合等の林業事業者や農業・食品関連企業等に依頼した。 ・ 農業法人や農業・食品関連企業や森林組合への就職を希望する全学科の2学年を中心としたのべ50名の学生がインターンシップを行ない、就職志望先での実践的学習に取り組んだ。	B 先進農林業者等体験学習の受入れ農林業者等の回答で5段階中4以上の評価(評価基準 5:きわめて良い、4:良い、3:普通、2:やや劣る、1:劣る) :(前期)87% (後期)89%	・ 受入れ先から記入していただいたアンケート調査の結果は、前期では一部学生の農作業に不慣れで、宿泊中の生活態度について指摘があったため、改善するよう指導した。また、後期では、林業経営学科の学生が現場での作業について不慣れを指摘されたが、全体としては良好な評価をいただいた。 ・ 今後も引き続き、関係機関の協力を得ながら学生が希望する受入先の選定に努めるとともに、後期はインターンシップも組み合わせ、進路確保につなげる研修を継続していく。 ・ 今後とも「先進農林業者等体験学習」「農業法人との就職相談会」や「林業経営学科学生への会社説明会」等の開催を通して、学生が農林業者、農業法人、森林組合等の林業事業者と接する機会を設け、インターンシップを希望する学生には積極的に実施をすすめていく。
3 組織や法人との連携強化による先進技術等の研修の充実	(1) 研修の実施数 :50回 (2) 林業関係の研修調査の実施 :10回	① 学科毎の組織や法人と連携した研修の充実(継続) 管内の優良法人等への視察研修を実施する。林業経営学科では森林組合等の協力を得て、高性能農林業機械の操作等の研修を実施する。また、農業法人の代表等からの講話を実施する。	・ 各学科において、先進的な農業者・農業法人や試験研究機関、青果・生花市場、食品製造会社等への研修を実施した。 ・ 林業経営学科では、森林組合や木材関連企業等の協力を得て、実践的な技術の習得に取り組んだ。また、GPS機器を使用した実習やGISによる森林情報処理技術など、IT関連の最新技術について学んだ。 ・ 非農家出身学生が増加し、農業法人への就職志望者が増えていることから、農業法人代表等からの講話を実施した。	(1)・・・C 農業系学科の調査・研修の実施数 :50回 (2)・・・A 林業経営学科の調査・研修の実施 :15回	・ 各学科の学習内容に関連する農業と林業の優良事例や最新の農林業の技術等を視察し、幅広い学習を実施することができた。来年度も、各学科単位で、より専門性の高い調査・研修を実施する予定である。 ・ 林業経営学科では林業・木材関連企業等の協力を得て研修を実施する。

<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 林業経営学科の運営は計画どおりに進め、学生は現場で必要な知識、技術の習得や資格取得に取り組む、第2期生は全員の進路を決定することができた。 「ASIAGAP」と「農場HACCP」の認証を取得するにあたり、担当職員が指導員資格を取得し、各学科で実践的な学習に取り組むことができた。次年度以降も取り組みを継続し、各学科での認証取得を目指していく。 先進農林業者体験学習は、学生が先進的な農林業経営者に学ぶ機会であり、またインターンシップは、学生が卒業後のより良い進路を選択する機会であるため、今後とも充実できるよう努める。 	<p>評価</p> <p>B</p>
--	---------------------------

<p>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 林業経営学科卒業生の林業就職率の目標が60%となっているが、妥当な目標設定なのか。→今年度の2学年10名の就職先は、林業・木材産業が9人で、あとの1人も林業関連の測量会社であることから、全員が本県林業の担い手となっている。 「森林経営管理制度」の視点での学習とは、何を行なうのか。→長期的な視点で森の遷移をみる技術が必要と考えている。市町村における森林・林業に関する行政需要に対応できるようにしていきたい。 林業は木の伐採だけでなく、木を育てることも重要である。→本校では、林業の仕事は伐採50%、造林・育林50%と考えて学習に取り組んでいるが、より一層強化していきたい。 森林研究研修センターと連携して学習してほしい。→当センターからは、ワラビのグランドカバープランツ利用による下刈りの省力化技術等を学んでおり、今後も連携していきたい。 チーズ、ヨーグルト製造に取り組んでいる理由は何か。→本校は畜産と農産加工の両学科を設置しており、自家生乳を使った乳製品を製造できる特徴を生かしていきたいと考えている。また、農畜産物の国際競争が激化する中、農業者を対象に、新設する乳製品製造施設を利用した研修を実施するので活用していきたい。 	<p>評価</p> <p>B</p>
--	---------------------------